



豊橋・さくらピア制作の脚本

防災コン最優秀賞

ラジオドラマ部門で「避難所体験の素直な発想形に」

意見を交わしながら脚本を書き上げる参加者（昨年9月の避難所体験にて・さくらピア提供）

ながら書いた脚本は、各自の立場に置き換えた人物が登場する。災害時に求められる心づかいや配慮、障害者が避難所で困らない設備などの必要性を問う内容となっている。

さくらピアは、2009年から避難所体験を実施。消防庁

独立行政法人・防災科学技術研究所が主催する「防災コンテスト」の防災ラジオドラマ部門で、豊橋市障害者福祉会館さくらピア（東新町）が制作した脚本「障害者が避難所に来たら、最優秀賞を受賞した。さくらピアは、昨年実施した避難所体験の際に脚本を書き上げてコンテストに応募していた。本田栄子事務長は「参加者の素直な発想が形になった」と受賞の感想を語った。

同部門には、全国の36団体が作品を出品した。さくらピアは視覚や聴覚障害者などを含む市民が、災害時に避難所を訪れた際の行動や会話を想定した脚本7本を制作。計61人の市民が7グループに分かれ、避難所での対応に困る地域住民や、身動きが取れない障害者のようすを記した。

ドラマは、大地震発生や避難所に地域住民が集うことのみを設定。障害者や住民が意見を交わし

の「防災まちづくり大賞」の総務大臣賞や「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞している。

昨年9月に実施した避難所体験では、新たな取り組みとして参加者が意見の出しやすい脚本づくりを挑戦した。脚本は、さくらピアのホームページでの閲覧が可能。本田事務長は「各団体が行う防災研修に、脚本を役立ててほしい」と、地域に良い影響が及ぶことを期待を寄せる。

（佐々木雄紫）

2015年2月11日 東日新聞